

3 (仮称)奈良県国際芸術家村における文化芸術振興の方向性をふまえた「学び」と「拠点づくり」

平成30年2月9日

奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

(1)「学び」(屋外体験ゾーン) 検討状況(基本設計案)について

子どもや家族連れなどが憩い・楽しむことができる空間として「屋外体験ゾーン」を整備。

導入設備

平成28年度策定した基本計画に基づき、計画区域の東側の丘陵地において、①屋外アート展示空間、②展望台、③散策道、④郷土教育等にも活用することができる活動・交流スペース(体験広場)などを導入

屋外体験ゾーン整備イメージ(基本設計案)

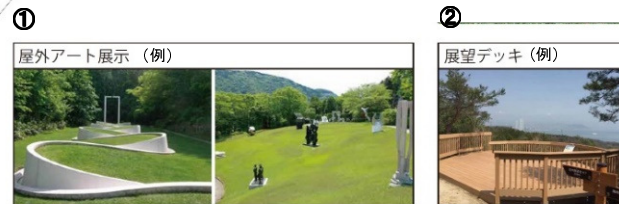


導入設備(案)

- ①屋外アート展示空間
丘陵地の一部を屋外アート展示空間として整備。当該拠点で創作した作品等を展示。
- ②展望台
丘陵地の頂上部分に展望設備として展望デッキを整備。大和青垣の眺望を確保。
- ③散策道(園路)
屋外アート展示空間や展望台を繋ぐ散策道を整備。
- ④活動・交流スペース(体験広場)
国際芸術家村での各施設の取組と連動しながら、文化・芸術活動や地域交流、親子で学び、楽しむことができる空間を整備。

【整備例】

- ・窯(陶芸)
伝統工芸施設に関わる陶芸作家によるプロジェクトとして、作家達が使用する窯を自ら製作し、来村者向けの体験学習にも活用。(後掲P.11参照)
- ・フリースペース
伝統工芸施設、農村交流施設ほか各施設に関わる活動・交流スペースを整備し、来村者向けの体験学習(土器焼き、屋外調理など)にも活用。



3 (仮称)奈良県国際芸術家村における文化芸術振興の方向性をふまえた「学び」と「拠点づくり」

平成30年2月9日

(1)「学び」(屋外体験ゾーン) イメージパース

奈良県国際芸術家村構想等検討委員会 資料案



3 (仮称)奈良県国際芸術家村における文化芸術振興の方向性をふまえた「学び」と「拠点づくり」

平成30年2月9日

奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

(2)「拠点づくり」 (仮称)奈良県国際芸術家村における文化芸術の拠点づくり

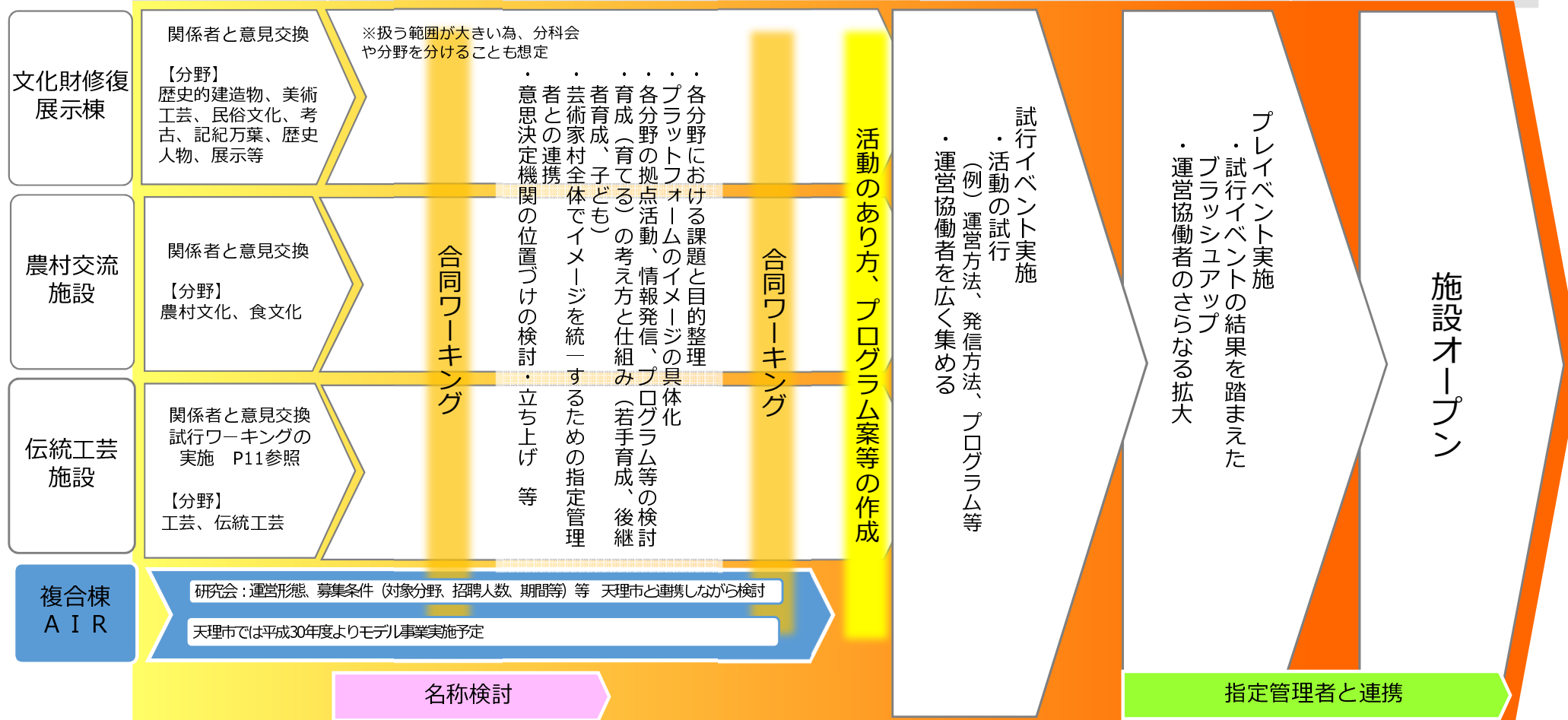
芸術家村の目的、方向性を芸術家村に関わる人々と共有し、活動のあり方（各分野の拠点活動、情報発信、来訪者向けプログラム、人材養成等）を検討する必要あり。



平成30年度、各分野及び合同ワーキングを実施し、具現化を図る。

平成31年度以降、試行イベント等を通じ、担い手となる協働者等を広く集め、プラットフォームを形成。開村後もさらなる発展を目指す。

平成29年度 ワーキング準備	平成30年度（2018年度） ワーキング	2019年度、2020年度 試行イベント、プレイベント実施	2021年度 オープン
<ul style="list-style-type: none"> 各施設に関わる各分野の課題・目的等抽出の為の人選 各施設、各分野の融合を実現する為の人選 	<ul style="list-style-type: none"> 各分野ワーキング（月1回） 拠点となる各分野の課題・目的等の共有 各分野でのプラットフォーム形成の為のイメージの具体化 合同ワーキング（年2回） 異分野を結びつけ芸術家村および奈良県の文化芸術の課題・目的等を共有。 芸術家村全体のプラットフォーム形成、文化振興大綱の総合拠点の為のイメージの具体化 	<ul style="list-style-type: none"> 一体となった試行イベントを実施 運営協働者等を広く集め各施設、各分野、芸術家村全体のプラットフォーム形成（芸術家村全体の目標・理念を共有） 	<ul style="list-style-type: none"> 各施設・各分野、芸術家村全体のさらなる発展のため、県民、来訪者等の支援、参画のもと、一体となって課題共有・解決できる土壌を形成する



(2)「拠点づくり」 工芸分野における試行ワーキングについて

- 平成30年度に実施する各分野ワーキングを前に、工芸分野の試行ワーキングを実施。
- 工芸分野の検討課題抽出とともに、平成30年度ワーキングのあり方も検討する。

■ワーキングの経緯

- 平成28年12月
奈良県工芸協会幹事・堀部伸也氏の呼びかけにより、有志による勉強会を実施。
- 平成29年6月
奈良県工芸協会理事長・小川二楽氏の呼びかけにより、国際芸術家村整備推進室との意見交換会を実施。

●平成29年12月 工芸施設試行ワーキングを実施

【メンバー】

- 小川二楽氏 赤膚焼窯元 奈良県工芸協会理事長
- 堀部伸也氏 ガラス工芸職人 奈良県工芸協会幹事/現代工芸フェアちんゆいそだてぐさ代表
- 浅井公仁氏 ギャラリー十三夜オーナー 株式会社パールバック代表取締役(出版社)
- 堀池幸一郎氏 アンドデイズデザイン代表取締役(デザイン業)
- 山本雅彦氏 奈良陶芸家

【議題】

- ・作り手のプラットフォームを目指すために
- ・施設活用の課題 等

工芸施設試行ワーキング内容

■主なコメント

【施設の性格・目的について】

- ・どんな人に、どんなときに、誰のために、何のための施設が整理が必要。
- ・作り手側の施設なのか、観光客に向けての施設なのかがわからない。
- ・失敗をたくさん積めるとい形を模索する必要があるのでは。
- ・ここでの取り組みを全国や海外に持っていくようなつながりが必要。
- ・本質の部分を変えずにプログラムを更新していく仕組みづくりが必要。
- ・プラットフォームだけ作って、勝手にみんなが情報を入れて取っていくシステムが、インターネットやWeb上でなく、芸術家村でできると面白い。

【育成について】

- ・何をもちて育てるというのか、育てるという意味合いがまちまち。
- ・観光客向けではなく、プロの養成が主目的の施設であるべき。
- ・ブランディングという作り手が不得意なところを教育、指導する必要がある。
- ・流通は奈良県の協力なしにはできない。
- ・海外へ若手を出して発信していくことが大事。
- ・工芸に関して、子どもを本気で育成する施設にしてあげたい。
- ・子どもには遊びの中でいるんなことをさせて見つけていく施設に。

【運営】

- ・芸術家村の各施設を誰がつなげて、どう意思統一を果たしていくかが重要。
- ・アートディレクター、プロデューサーみたいな役割が必要。

【屋外体験ゾーン】

- ・芸術家村に薪金ができれば、作り手は借りたいのではないかと思う。
- ・窯を作りたい人を集め、ワークショップ形式で窯をつくつたらいいと思う。
- ・単一用途ではなく多目的に使用できると良い。

【その他】

- ・芸術家村の施設の備品(テーブル、食器等)が作り手のものであり、すべて購入できる仕組みがあれば、作り手にとって面白い挑戦になる。
- ・作り手の制作環境は大事だと思う。人がワイワイしている中で物は作れない。

ワーキングにより抽出された検討課題と今後の流れ

■検討課題

- ・工芸施設におけるプラットフォームのイメージの具体化
- ・芸術家村における工芸施設の目的
- ・ターゲットの整理
- ・プログラムを更新していく仕組みづくり
- ・育成(育てる)の考え方と仕組み(若手育成、後継者育成、子ども)
- ・民間活用と行政支援の区分
- ・国際交流
- ・情報発信の仕組みづくり
- ・屋外体験施設における窯の設置
- ・工芸を活かした施設デザインの検討
- ・作り手の作品の展示(販売)手法の検討
- ・作り手の制作環境を守る為の観光客との交流のあり方、見学ルール作り

検討

平成29年度第2、3回工芸ワーキング

- ・上記検討課題についての深掘り
- ・来年度ワーキングのメンバー構成
- ・屋外体験施設における窯設置について

《屋外体験施設 窯プロジェクト(案)》

- 平成30年度ワーキングにて、作家による窯プロジェクトの可能性を検討。
- ・窯作りに興味のある作家・作ったことのある作家を集める。
- ・窯師を雇って設計、指導をしてもらいながら開村と同時に窯プロジェクト始動。
- ・作家が窯を製作。

4 (仮称)奈良県国際芸術家村整備スケジュール(案)について

- 整備スケジュール概要
 平成28年度 基本計画策定
 平成29年度 造成設計、造成工事着手、建築設計、
 運営体制の構築検討などを実施
 平成30年度 建築工事着手、指定管理事業者公募条件検討等予定
 ～平成32年度中の完成を目指す

- 財源の確保(国交付金等を最大限に活用)
 ・地方創生拠点整備交付金(主としてハード整備)
 一次交付(約11.9億円)
 二次交付約8.7億円から生産性革命に資する交付金へ振替申請約8.7億円(予定)
 ・地方創生推進交付金(主としてソフト事業)
 H30年度交付申請 約2.9億円(予定)
 ・農山漁村振興交付金 H30年度交付申請 1.9億円(予定)
 ・社会資本整備総合交付金 H30年度交付申請 0.7億円(予定)

事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
計画策定	基本計画策定					
国際芸術家村構想等検討委員会	◇第4回(6/29)	◇第5回(11/9) 基本計画案を承認	◇第6回(3/29) 諸室機能、運営形態等を確認	◇第7回(11/8) 建物配置、諸室機能面積等を確認 ◇第8回(2/9) 展示計画・整備費等を確認		
議会関係		◇12月議会 基本計画案を報告	◇2月議会 関連予算を議決	◇9月議会 関連予算を議決	◇12月議会 委員会報告(11/8第1委員会)	
施設建設関係		用地買収・造成設計・工事			建築設計・工事	
運営主体、体制構築検討	運営主体検討業務		運営主体・体制構築等検討 (運営体制構築に向けた諸検討)	指定管理事業者公募条件検討	事業者公募・決定 開村準備	

地方創生推進交付金等を活用したH30年度以降の予算(整備事業費(造成工事費、建築工事費等)及び関連予算)について議会へ上程予定

整備事業費
99.5億円程度



芸術家村開村(2021年)を見据えた芸術文化エリア構想について

- 「国際芸術家村」と天理駅周辺の2つの芸術文化拠点を結ぶエリアを「芸術文化エリア」と位置づけ、主要動線として「芸術通り」を整備。
- 山の辺の道や大学施設、石上神宮等を巡る周遊観光に、芸術文化の活動・展示・イベントを掛け合わせることで、「芸術文化に出会える街づくり」を進める。

1. 芸術家村を核としたエリアづくり

天理芸術文化エリアでの取組

- まちなかアート展示(ホワイトキューブ設置)
- アートサインの整備
- AIRモデル事業
- 芸術祭(県市連携) など

(関連取組)

- ストーリー・タイム
アーティストによる子ども絵本読み聞かせのステージ
- フィールドトリップ
山の辺の道や芸術ゾーンをスケッチセットを持って巡るウォークイベントにより、芸術文化エリアの魅力を体感
- 「芸術文化に出会える街」をPR
六甲ミーツ・アートなど関西の芸術祭に合わせ、神戸、大阪、京都でトークセッション等のプロモーションを実施し、機運醸成
- 市民参加の芸術文化行事
国文祭・障文祭での盛り上がりを受け継いだ市民参加の芸術文化行事

マンモス・ストーリー・タイムの様子

2. 天理市の主な事業展開

AIR(アーティスト・イン・レジデンス)

旧パチンコ店を

ゲストハウスに整備

ゲストハウス(イメージ)

OAIRの拠点を確保

芸術家村で研修する伝統技術とゲストハウス1階に整備する3Dプリンタ、レーザーカッターなど最新技術を融合した創作活動が可能

OAIR実証実験の実施

内外の芸術家が一定期間滞在し作品を製作し作品展やワークショップを実施
H30～H32年度に計10名程度の招聘を想定

芸術文化エリア・芸術通り

駅前商店街等にホワイトキューブを整備

ゲストハウスと候補地(上)
整備後イメージ(左)

○ホワイトキューブの整備と活用

空き店舗を活かしAIRの作品発表やワークショップの場に

○まちなかアート展

AIR事業を活かし、ホワイトキューブ等を拠点に「まちなかアート展」を実施

○アートサインの整備

駅前から芸術家村へ至るルートを複数設定し、アートサインを整備

○デザインウォークの実施

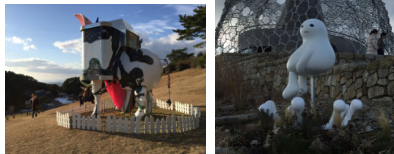
スケッチセット片手にデザイナーが同行するウォークツアー

発展させて

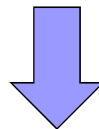
3. 全国の事例

(1)六甲ミーツ・アート

六甲山周遊エリア全域にアート作品が点在



エリア全体が創作・発表の場に



芸術家村を支えるネットワークづくり

(2)奥能登国際芸術祭

奥能登エリア内の約40か所にアート作品が点在

